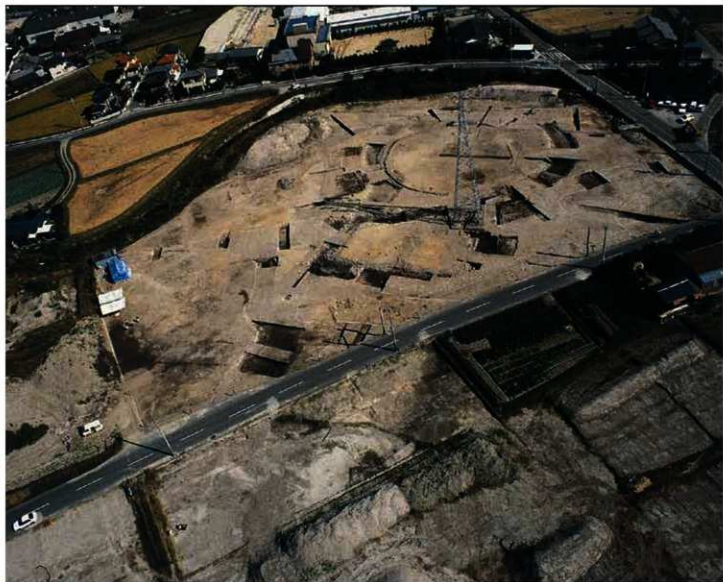


# 拝塚古墳

- 県営入部圃場整備事業重留遺跡群第2次調査報告 -



福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1265 集

2015

福岡市教育委員会

## 序 文

福岡市の西南部に位置する早良平野は、室見川とその支流によって肥沃な田園景観を形成していますが、福岡市街の郊外への伸長に伴い、田園風景を失いつつあります。

本書で報告する重留遺跡群の発掘調査は、入部地区の圃場整備事業に伴うものです。昭和63年度の第2次発掘調査によって、太平洋戦争後まで円墳として遺存していた拝塚古墳が前方後円墳であることがわかりました。家形埴輪や円筒埴輪の他、前方部から武人埴輪が出土しましたが、肥沃な早良平野を基盤とした強力な首長層の出現を示すもので、大和王朝との関係性や北部九州の古代史を知る有力な手懸りとなるものです。

本書によって入部・重留地域の歴史・文化について理解と認識を深めるためにご活用いただければ幸いです。最後に、調査から本書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに心から謝意を表する次第です。

平成27年3月25日 福岡市教育委員会 教育長 酒井龍一

## 例 言

1. 本書は、福岡市早良区大字重留に所在する重留遺跡群・重留古墳群発掘調査報告書である。
2. 拝塚古墳及び方墳は、福岡市分布地図（西部Ⅰ）では、重留古墳H群とされているが、ここでは、重留古墳H群1号墳を「拝塚古墳」、同じく2号墳を「方墳」とする。
3. 本書に掲載した遺物実測図は、吉田扶希子、田中昭子、井澤洋一が行い、製図は井澤が行った。
4. 本書の執筆・編集は、井澤洋一が担当した。

|        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 遺跡調査番号 | 8801                  | 遺跡略号   | SGT                   |
| 地 番    | 福岡市早良区重留字塚本           | 分布地図記号 | 重留84                  |
| 調査対象面積 | 11,012 m <sup>2</sup> | 調査面積   | 10,514 m <sup>2</sup> |
| 調査期間   | 昭和63年6月23日～平成元年2月10日  |        |                       |

## 第1章 はじめに

### 1. 発掘調査に至る経過

入部地区の圃場整備事業は、事業年度が昭和62年度から8ヶ年、事業面積75haの事業計画が提示されているが、区域内には、これまでの埋蔵文化財分布調査等によって12箇所の遺跡群と古墳1基が把握されており、福岡市文化財分布地図（西部Ⅰ）に記載されている。

昭和63年度の事業計画区域が16.2haの広範な地域に及んだため、5月～6月間に試掘調査を実施し、設計変更等によって調査対象面積の縮小を図ることとした。拝塚古墳が存在する第2地点は、当初一部切り土工の予定であったが、試掘調査によって盛り土工に変更された。

### 2. 発掘調査の組織

県営入部圃場整備事業主体

福岡県農林事務所農地整備鉱吉課 福岡市経済農林水産局農薬土木課  
福岡市入部土地改良組合

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課長 柳田純孝 第二係長 飛高憲雄

調査担当 第二係 井澤洋一 野村俊之 第一係 菅波正人

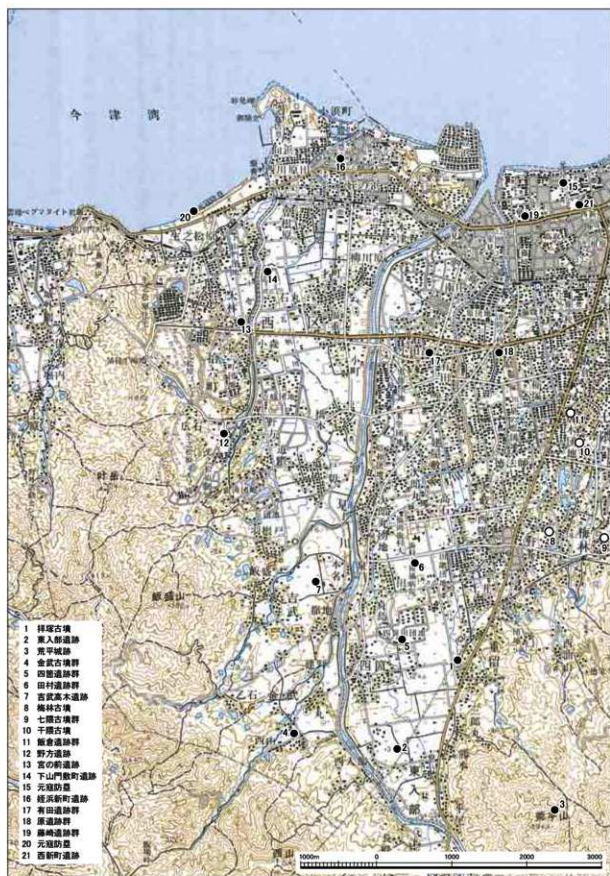


Fig.1 早良平野の主な遺跡 (縮尺 1/25000)

## 第2章 調査報告

### 1. 立地と歴史的環境

遺跡の位置する早良平野は、西側を飯盛、長垂山山塊、東側を油山山塊、南側を背振山脈で区切られた完結性のある小平野を為している。平野の中央には背振山脈に源を発する室見川が北流し、博多湾に注いでいる。平野内には幾つかの洪積台地も点在するが、その大部分は室見川を中心とした河川の沖積作用によって形成されている。重留遺跡群は、早良平野の中央東寄りの室見川と金屑川にはさまれた標高は約 25 ～ 28m の沖積微高地上に展開する。遺跡は、南北 1km に亘る範囲に分布し、行政的には福岡市早良区大字重留に位置する。

早良平野において室見川中流域左岸の吉武遺跡群では、圃場整備事業において「早良王墓」と称される青銅器を副葬した弥生時代の墳墓群及び、弥生時代後期の大型建物跡を検出した吉武高木遺跡や、古墳時代においても帆立貝式前方後円墳の種差古墳が存在する。

右岸の四箇遺跡群は縄文時代～古墳時代に亘る遺跡で、特に縄文時代後期の泥炭層からは多数の土器・石器の他にヒョウタン、マメなどの栽培植物が検出されている。田村遺跡群の10地点調査では板付I式併行期の甕棺墓が検出されている。また、上流の東入部遺跡では、青銅利器や鉄器を副葬した甕棺墓や木棺墓が発見されている。この地域における甕棺墓出現と首長層の形成に関して貴重な遺跡といえる。

下流右岸の丘陵地帯には、弥生時代の飯倉遺跡、4世紀の前方後円墳の干隈古墳、5世紀後半～6世紀中葉の前方後円墳である梅林古墳が存在する。

### 2. 調査経過

昭和 63 年度の入部地区圃場整備計画区域には、早良区大字重留字塚本・松本・町田が含まれる。拝塚古墳が存在する第2地点は、一部が削平の対象となっていたが、試掘調査によって前方後円墳であることが判明したため、関係機関との協議により盛土保存することとした。発掘調査は、規模確認を主たる目的として全面調査を避けて調査対象を限定した。

第2地点（68-1～4 田面）は、大字重留字塚本に所在する。拝塚古墳・方墳の他、古墳時代から中世までの住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、河川跡等の遺構を検出した。拝塚古墳は、江戸時代の開田によって古墳が削られ、第2次大戦後までは円墳として遺存していたことが「早良郡志」記載の写真に認められる。昭和 27 年の開墾作業の土取りによって墳丘は全て失われ、不整形形状に畦を残して墳丘上も水田化したと伝えられている。

この時、土取り作業に従事した人々の話では、墳丘上に石が詰められており、内部から真赤に朱を塗った板石（石棺か？）や玉が出土したという。今回の発掘調査においても顔料が付着した板石割材を多数採集している。又、鉄刀が数本出土したそうである。

拝塚古墳は、地元では通称「拝塚」、又は「灰塚」と呼称されているが、この名称の由来は中世の伝承にまつわる。福岡市文化財分布地図（西部Ⅰ）では「灰塚」と記されているが、「筑前国続風土記拾遺」や「筑前国続風土記附録」などでは「拝塚」の名称が用いられており、今後は江戸時代の地誌に倣い「拝塚古墳」の名称に統一したいと思う。



早良平野の入り部・重留地域航空写真

※国土地理院提供

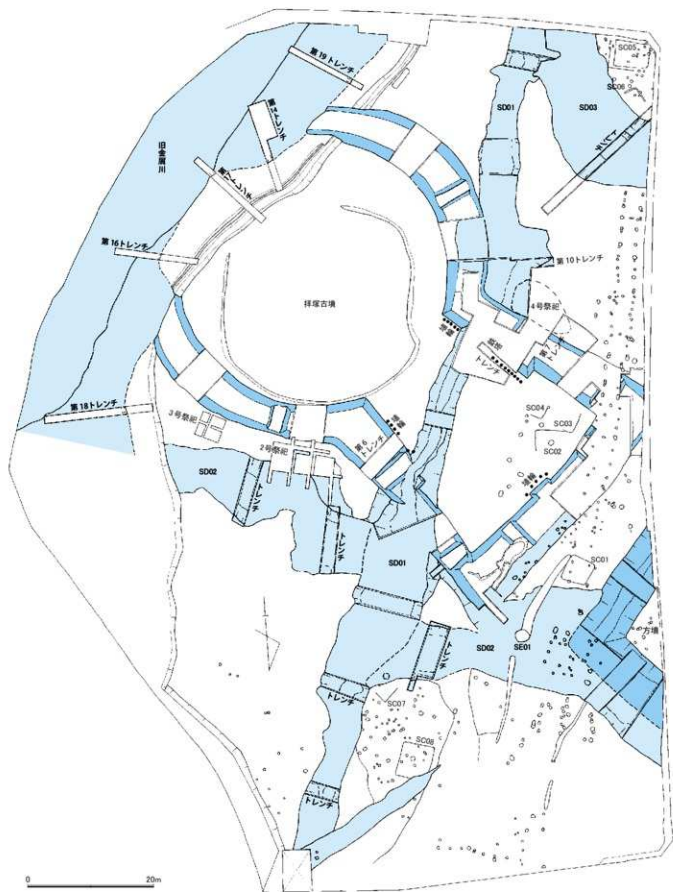


Fig.2 第2地点 遺構配置図 (縮尺 1/600)

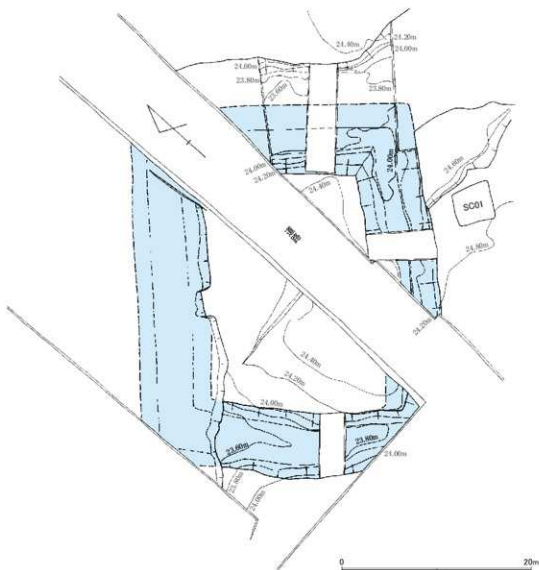


Fig.3 重留2号墳実測図 (縮尺 1/400)

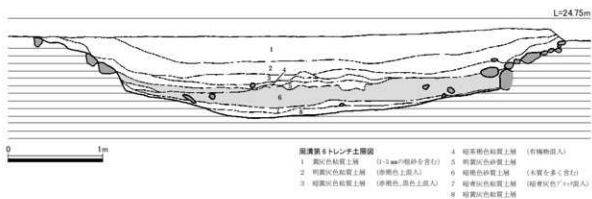


Fig.4 周溝第6トレンチ土層図 (縮尺 1/40)



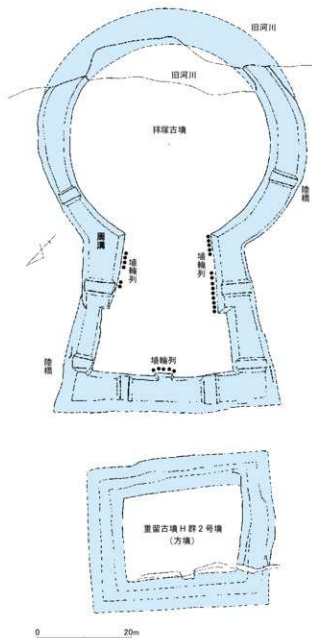


Fig.5 拝塚古墳・方墳位置関係略図 (縮尺 1/800)

埴輪には、4種類の壺形埴輪、二種類の朝顔形埴輪、円筒形埴輪、二種類の家形埴輪、鞍形、草摺形埴輪、団形埴輪、人物(武人)形埴輪がある。

人物形埴輪は前方部前面の幅約4mを測る入角の底面から出土したが、元来はこの入角上段に立地していたと考えられる。人物形埴輪には手足の表現が無く、胴部には条線によって楯状の斜格子文様を、背面には同じく斜格子の文様で鞍形を表現している。武人像と考えたい。軛と考えられる埴輪が出土しているが、形状から人物埴輪頭部の飾りとして接着していた可能性がある。類例がなく、また、人物埴輪頭部との接点が見つかっていない。

### 3. 拝塚古墳の調査

拝塚古墳は、墳丘の大部分を失い、幸うじて墳丘の一段目が遺存していた。遺存した墳丘の平面プランによれば、前方部の側縁が出隅状に張り出した特異な形状を呈する。平面規模は、全長75m、後円部直径45m、前方部前面の幅約31mを測る。この古墳には鍵穴形の周溝が巡っている。幅約7～9m、深さ約0.75～1.3mを測り、南側の周溝が深くなる。周溝内には陸橋が設けられており、前方部に2ヶ所、後円部に6ヶ所存在する。陸橋幅は約3～3.5mを測る。墳丘の側縁、前方部の三か所で壺形埴輪列が認められたが、周溝内縁からも壺形埴輪が倒れた込んだ状態で出土した。円筒形埴輪は非常に少なく、周溝内に転落した状態で出土する。小破片で、磨耗が著しいところから、元来は墳丘の二段目以上に配置されていたものと考えられる。

葺石は、墳丘と周溝外壁に施しているが、前方部前面の周溝外壁には施していない。陸橋と葺石の関係では、陸橋部に縦断するトレンチを設けたところ、墳丘接続部では陸橋内に墳丘葺石が存在し、周溝外壁接続部分には陸橋内部に葺石が存在しない。陸橋や葺石の施工順位に関する問題を提起している。

周溝内から埴輪の他、壺形土器や高坏などの祭祀土器が出土している。4世紀末から5世紀中頃の幅をもっており、経年の祭祀が行われたことが推測される。また、周溝内から木桶、杭、簀子状木製品が出土したが、簀子状又は、簾状の細木を組み合わせた木製品は、周溝内に伏せた状態で出土した。その他に菅玉1点がある。





第2地点 拌塚古墳全景（南より）



第2・3地点 重留古墳H群2号墳：方墳（北東より）



後円部全景（南より）



後円部西側の葺石状態（西より）



くびれ部の葺石状態（西より）



周溝第1トレンチ陸橋の状態（南より）



陸橋と墳丘接合部の状態



前方部全景（西より）



前方部西側の状態（西より）



前方部出隅の状態（西より）



前方部全面の入隅の状態（北より）



前方部入隅部周溝出土の人物埴輪（北より）



第9トレンチ周溝内出土の糞子状組合せ木製品（西より）



第6トレンチ墳丘上壺形埴輪出土状態（西より）



前方形第2トレンチ墳丘上の埴輪列（北より）



周溝内出土家形埴輪



3号祭祀跡の状態（東より）





3号祭祀遺構土器出土状態



4号祭祀遺構土器出土状態

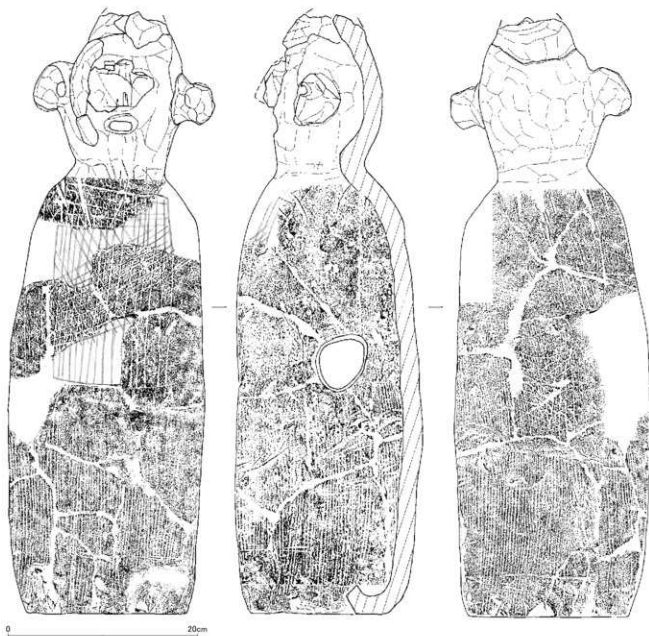


Fig.6 拝塚古墳出土人物埴輪 (縮尺1/4)

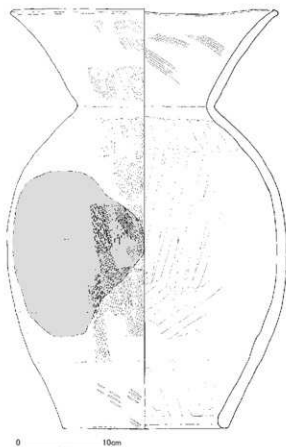


Fig.7 壺形埴輪 (縮尺 1/4)



入母屋式家形埴輪



家形埴輪

#### 4. 拝塚古墳祭祀遺構・遺物

拝塚古墳に関する祭祀遺構は、周溝外側に4ヶ所認められる。いずれも周溝外周に接しているが、掘り方が明確ではなく、築造・整地に際して祭祀が行われたものであろう。

第2・3・4号祭祀遺構は周溝外壁に接して存在し、4号祭祀遺構は旧河川跡の軟弱な地盤を補強した整地層中にある。祭祀土器には土師器高坏、小型丸底壺、二重口縁壺、甕、鉢などがある。2号祭祀遺構では小型丸底壺が20数個体出土したが、全て盗難にあった。

周溝内の祭祀遺物には土器と木製品がある。土器は周溝底に堆積した厚さ20～40cmの腐植土層の下位又は、上位から出土しており、時期幅も持っている。土器は土師器小型丸底壺、高坏が中心であり、甕形土器は少ない。糞子状組み合わせ木製品は、前部周溝南側の陸橋部に接して出土した。経に長さ3m、直径2～3cmの自然木約50本を、緯に長さ2.5m、直径4～5cmの加工木5本を組み合わせている。緯木の頭部には切り込みもっているため、紐などで吊るか、突っ張りの溝としたのであろう。目隠し、幕張状に使用したものか不明である。

#### 5. 重留古墳H群2号墳(方墳)

第3地点(67-5 田面)は、第2地点の西側道路を挟んで位置する。遺構は、方墳の重留古墳H群2号墳と河川跡を検出した。方墳の西側部分は、中世の河川跡で削平されており、又遺構面の中央に道路が横断しているため全体形を把握できない。平面形は歪な長方形を呈し、長軸約13m、短軸約9mを測る。又、幅約3mの周溝が四周を巡るものと推測できる。主体部は削平のため不明である。葺石や埴輪の出土はない。

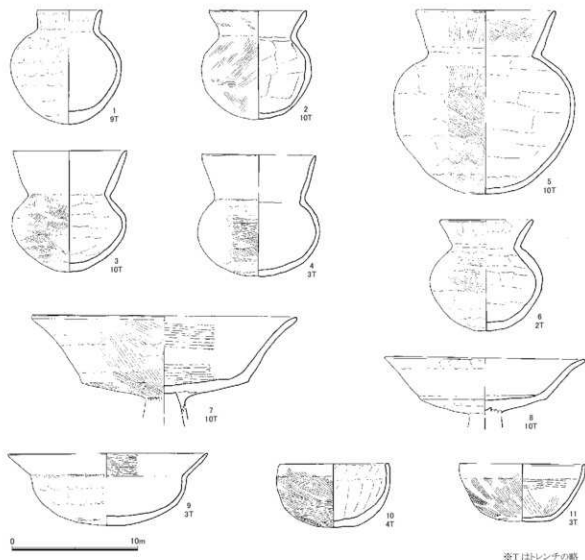


Fig.8 周溝内祭祀遺物 (縮尺1/3)

方墳に伴うと考えられる遺物は、墳丘上と周溝の中から布留式併行期の土師器甕、壺等が出土した。この方墳は拝塚古墳の前方形前面に位置し、しかも墳丘主軸を拝塚古墳の主軸に合わせるなど強い関連を看取できる。

## 6. 終わりに

拝塚古墳の発掘調査を1989年に行って以来今日まで、資料整理は全く手付かずの状態であった。25年を経過した現在、記憶の退化も著しく、図面整理にも支障をきたした。今年度措置された資料整理費は、僅少であったため整理対象を絞らず得なかったため。壺形・円筒・朝顔形埴輪に限って復元可能なものを選び接合する作業に終始した。よって他の出土遺物は、土器や埴輪、木製品も含めて一切整理作業を行っていない。

今回、遺跡内容を十分に吟味することなく、編集に携わった事は、痛恨の極みである。拝塚古墳を正しく評価していただけるように、今後も資料整理を地道に行いながら何らかの形で報告したいと考えている。最後に厳しい園場整備事業の発掘調査に携わった方々や、報告の機会を与えて下さった関係者の皆様に感謝の意を表するものである。



## 報告書抄録

|                 |                                                                                                         |         |          |                           |            |                           |           |              |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----------|---------------------------|------------|---------------------------|-----------|--------------|
| ふりがな            | はいづかこふん                                                                                                 |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 書名              | 拝塚古墳                                                                                                    |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 副書名             | 県営入部園場整備事業重留遺跡第2次調査                                                                                     |         |          |                           |            |                           |           |              |
| シリーズ名           | 福岡市埋蔵文化財調査報告書                                                                                           |         |          |                           |            |                           |           |              |
| シリーズ番号          | 第1254集                                                                                                  |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 編集者名            | 井澤洋一                                                                                                    |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 編集機関            | 福岡市教育委員会                                                                                                |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 所在地             | 〒810-0001 福岡市中央区天神1-8                                                                                   |         |          |                           |            |                           |           |              |
| 発行年月日           | 2015年3月25日                                                                                              |         |          |                           |            |                           |           |              |
| ふりがな<br>所収遺跡名   | ふりがな<br>所在地                                                                                             | コード     |          | 北緯                        | 東経         | 発掘期間                      | 発掘面積<br>㎡ | 発掘原因         |
|                 |                                                                                                         | 市町村     | 遺跡番号     |                           |            |                           |           |              |
| しげのめいせき<br>重留遺跡 | ふかこふん<br>福岡県福岡市<br>早良区重留字塚本                                                                             | 40132   | 2453     | 33°53'06"                 | 130°33'76" | 19880623<br>～<br>19890210 | 11012 ㎡   | 県営<br>園場整備事業 |
| 所収遺跡名           | 種別                                                                                                      | 主な時代    | 主な遺構     | 主な遺物                      |            | 特記事項                      |           |              |
| 重留遺跡            | 古墳                                                                                                      | 古墳～室町時代 | 前方後円墳・方墳 | 人物・壺形・円筒・家形<br>埴輪、土師器祭祀土器 |            | 畿内型の前期前方後円墳               |           |              |
| 要約              | 古墳時代から中世の遺構を検出した。主たるは、前方後円墳と方墳、及び祭祀遺構である。前方後円墳は、前方部方墳状に出っ張りを持ち、前方部前面の中央が鍵形の入角を設けている。その位置に人物（武人）埴輪が存在した。 |         |          |                           |            |                           |           |              |



発掘作業風景



遺跡見学会風景



3号祭祀遺構実測風景

### 拝塚古墳

- 県営入部園場整備事業重留遺跡第2次調査報告書 -

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1265集

2015年（平成25年）3月25日発行

編集・発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 株式会社I・P